

科目名 論理的思考  
Title Logical Thinking  
科目区分 一般教養科目

教授 担当教員 高松 正毅 ( タカマツ マサキ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
1~4

単位区分  
選択必修

単位数  
2

開講時期  
後期

## 目的

論文において最も重要なのは「論証」( = 「根拠」と「結論」の組みで述べること ) である。  
本講義は、この「論証」の習得を目的とする。具体的には、特に「反論すること」により論理的に考え、論理的に書くトレーニングを行う。

## 達成目標

「論証」のしかた、すなわち、「根拠」と「結論」の組みで述べる方法を身につける。  
本講義は、教科書『反論の技術-その意義と訓練方法-』に沿って展開する。なお、( ) 内は教科書該当ページの進捗の目安である。

## スケジュール

- 第1回 議論指導における反論の訓練の意義 / まず反論の訓練から始めよ / 反論ができれば十分である ( pp.7-10. )
- 第2回 反論の二つの型—「主張型反論」と「論証(論破・切り崩し)型反論」 / 無視されている反論の訓練 ( pp.10-18. )
- 第3回 反論は議論の本質である / 意見を述べるとは、反論すること ( pp.18-24. )
- 第4回 誰も反対しないことを主張させる現行の意見文指導 ( pp.24-35. )
- 第5回 反論ができなければ、議論もできない ( pp.35-42. )
- 第6回 反論は真理を保証する / 反論のための反論は正当な方法である ( pp.43-51. )
- 第7回 「違ったあり方も可能とするもの」 / 誰が詭弁をつかえるか / 反論は立論を強化する / 自分の議論に反論する / 対立する立場の意見を取りあげる / 予想される反対意見を先回りする ( pp.51-72. )
- 第8回 反論の訓練 / 訓練を始める前に / 私の訓練方法の基本方針 / 教材文選択の条件 ( pp.109-115. )
- 第9回 基礎訓練・型の習得 ( その一 ) / 主張と根拠を確認する / 反論を考える / 型の提示と文章の作成 ( pp.115-127. )
- 第10回 基礎訓練・型の習得 ( その二 ) / 主張と根拠を確認する / 型の提示と文章の作成 ( pp.139-150. )
- 第11回 相手の大前提を撃つ / 典型的失敗例 ( pp.151-156. )
- 第12回 隠された大前提 ( pp.156-161. )
- 第13回 大前提に反論する ( pp.161-168. )
- 第14回 実践演習 ( pp.168-169. )
- 第15回 まとめ ( 自己点検・自己評価 )

## 教科書・参考文献

教科書 香西秀信『反論の技術-その意義と訓練方法-』明治図書出版

参考書 野矢茂樹『論理トレーニング』『論理トレーニング101題』産業図書、宇佐美寛『作文の論理』東信堂、『論理的思考』メジカルフレンド社、松本茂『頭を鍛えるディベート入門』講談社BB、他。

## 授業外での学習

教科書『反論の技術』の次回該当ページを熟読してくること。講義内でも毎回指示する。

## 評価方法

「提出物」の量と質による。なお、教科書がないと授業に参加できないので、必ず持参すること。

## 履修上の注意

内容が極めて高度であるため、1回でも欠席すればついていけなくなる可能性が高い。履修する意思があるのなら、第一回から必ず出席すること。  
3回以上欠席すると単位を出さない。すなわち欠席は最大で2回まで可能だが、連続しての欠席は絶対に認めない。

科目名 哲学  
Title Philosophy  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
准教授 谷川 卓 ( タニカワ タク )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1~4	選択必修	2	前期

## 目的

この講義では、いくつか代表的な哲学のトピックを取り上げて、それらに対して哲学的にアプローチする仕方を紹介する。哲学ではどのようなことが問題とされていて、そしてそれらの問題がどのように取り組まれているのかについて、おおまかにでもイメージをつかんでもらえればと思う。講義のなかで何人が歴史的に有名な哲学者の議論を紹介することにもなるが、そうした哲学者の議論も含めて、一連のトピックに関する抽象的な議論を理解し、そしてそれを自分なりに検討できるようになることが、この講義の目的である。

## 達成目標

種々の哲学的論証を批判的に検討する練習に取り組むことで、哲学における重要問題について理解を深めるとともに、建設的な議論をするためのスキルを向上させる。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 論証とは何か
- 第3回 人の同一性をめぐる問題
- 第4回 人の同一性に関する身体説と心理説、そしてその教訓
- 第5回 自由意志をめぐる問題(1)：結果論証
- 第6回 自由意志をめぐる問題(2)：両立論
- 第7回 自由意志をめぐる問題(3)：非両立論
- 第8回 知識の諸相
- 第9回 哲学的懐疑論
- 第10回 デカルトの方法的懐疑
- 第11回 心的因果性をめぐる問題(1)：心的因果性の重要性
- 第12回 心的因果性をめぐる問題(2)：同一説の検討
- 第13回 心的因果性をめぐる問題(3)：随伴現象説・非法則的一元論・創発説
- 第14回 帰納法にまつわる哲学的問題
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 とくに使用しない。

参考書 講義のなかで適宜紹介する。さしあたり哲学の入門書としてつぎを紹介しておく。  
トマス・ネーゲル『哲学ってどんなこと?』、昭和堂、1993年

## 授業外での学習

講義で扱った論点について、あらためて自分で考えてみる。小テストや小レポートの結果を見直し、復習すること。

## 評価方法

小テスト・小レポート(40%)、期末試験(60%)  
授業時間を利用して、授業内容の理解を確認するための小テストと、授業内容についての考えを書いてもらう小レポートを行う。試験では、授業で扱ったテーマの基本事項についての理解を確認する。

## 履修上の注意

それなりに抽象的な議論を扱うので、授業で扱われる事柄に当惑してしまうひともいるかもしれない。哲学という学問に接するのははじめてという受講者もいるだろうから、それには配慮して講義を行うようにしたい。他方で受講者には、授業内容についてわからない点や疑問点などがあれば質問をするなど、積極的に授業参加することを求める。また当然のことながら、私語厳禁。

科目名 倫理学  
Title Ethics  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
特命教員 中原 真祐子 (ナカハラ マユコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

倫理学は、ひとが生きるにあたって踏まえている規範や価値を、哲学的に探究する学問である。本講義は、倫理思想史における主要学説について知識を得たうえで、現代における倫理学的問題について自分で考える方法を身につけることを目的とする。本講義では、古今東西の倫理学的問題とそれをめぐる議論を取りあげ、その蓄積の一端を学ぶとともに、古典テキストを主とし、現代の倫理的諸問題に関するテキストを実際に読み、議論を再構成する作業を行う。前半で倫理思想史を主に扱い、後半では現代社会における倫理的諸問題を取りあげ、それに対する意見を書いたりして、毎回の授業で配布したテキストを讀んで、議論を組む練習をした倫理学の歴史を知り、現代社会を生きる上で必要な倫理的思考法を身につけることを企図する。

## 達成目標

1. 倫理学の古典的テキストを、議論をたどりながら読むことができる。
2. 重要な倫理学説のいくつかを、説明することができる。
3. 現代の倫理的諸問題のいくつかについて、考察するための情報を集め、自分の意見を持つことができる。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション：倫理学とは何か
- 第2回 徳倫理学(1)
- 第3回 徳倫理学(2)
- 第4回 義務論 / カント倫理学(1)
- 第5回 義務論 / カント倫理学(2)
- 第6回 功利主義(1)
- 第7回 功利主義(2)
- 第8回 日本の倫理思想(1)
- 第9回 日本の倫理思想(2)
- 第10回 インタミッション：中間まとめ
- 第11回 現代倫理の諸問題(1)経済の倫理学
- 第12回 現代倫理の諸問題(2)経済の倫理学
- 第13回 現代倫理の諸問題(3)環境の倫理学
- 第14回 現代倫理の諸問題(4)生命の倫理学
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 必要な文献は講義内でコピーを配布する。

参考書 講義内で指示する。

## 授業外での学習

講義内で指示された課題に取り組み、期限までに提出すること。

## 評価方法

授業内で実施する小課題 ( 50% )、中間課題 ( 25% )、期末課題ないし期末試験 ( 25% )

## 履修上の注意

講義と、学生の作業を組み合わせるため、積極的に参加されたい ( 作業の例：倫理学の古典テキストの一部を讀んで議論を再構成する、講義内で取り上げられたトピックについて受講者同士で意見交換する、など )。特にグループワークの際は、最低限他の参加者の学習を邪魔しない社会的な態度で臨むこと。上述のスケジュールは、変更する可能性がある。

科目名 現代思想  
Title Contemporary Thoughts  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 小屋 竜平 (コヤ リョウヘイ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

### 目的

この授業では、20世期のフランスを中心とした思想、哲学を学びます。20世紀の半ばのフランスでは、「構造主義」という思想的な運動が起こり、それは19世紀以降から続く、「主体」や「人間」というものを中心に置く思想の流れを「切断」しようとする意思のもとなされたといえます。そのような流れを今回の授業ではとりわけ「言語」という観点から確保した上で、フランスにおける「現代思想」の展開を学びながら、そうした状況と私たちの生きている「現在」との間の関連を考え、「現代思想」を捉えることを目的としています。

### 達成目標

「現代思想」と呼ばれる思想についての理解を深める。授業内で得た知見をもとに、自分なりのテーマを設定し、レポートを作成する。

### スケジュール

第1回	初回ガイダンス	「他者」の問いと現代思想
第2回	現代思想のはじまり	1 「無意識」の発見とフロイト
第3回	現代思想のはじまり	2 ソシユールと『一般言語学講義』
第4回	現代思想のはじまり	3 現象学の諸問題
第5回	フランス構造主義	1 レヴィ=ストロースと「野生」
第6回	フランス構造主義	2 実存主義と構造主義
第7回	フランス構造主義	3 構造主義と隣接諸科学
第8回	精神分析と構造主義	ラカンとフロイト
第9回	精神分析と構造主義	ラカンと文学批評
第10回	ドゥルーズ・ガタリと構造主義	
第11回	行為遂行性とオーステイン	もう一つの言語論的転回
第12回	フォーコーにおける「言説」の問題	
第13回	デリダにおける「声」と「文字」	
第14回	デリダと「署名」	オーステイン批判読解
第15回	最終総括(レポート講評)	

### 教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 特になし

### 授業外での学習

授業内で適宜紹介する文献の読解を通して、学習内容の定着をはかる。レポート作成にあたっては、自らでテーマを設定し、参考図書にあたってもらう。

### 評価方法

学期末レポートで評価する。ただし、平常点(授業後に回収する「リアクションペーパー」による参加度)を加味する。

### 履修上の注意

特になし

科目名 科学哲学  
Title Philosophy of Science  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 工藤 怜之 (クドウ サトシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

現代社会では、科学というものが大きな影響力や権威を持っている。何かに対する批判・攻撃として「非科学的」「二セ科学」といった言葉が使われることがあるのも、そのことの裏返しと言える。しかし、科学と疑似科学・二セ科学は何が違うのかという問いは、よく考えてみると意外と簡単ではない。この講義では、科学と疑似科学・二セ科学の線引きは可能なのか、という問いに科学哲学の見地から取り組む。そして、それを通じて、意見や判断が「非科学的だ」といった言葉をどんな意味で理解すればよいのか、疑似科学は社会にとって悪なのか、などを考える。科学哲学という分野の入門となることを意図しているが、知識の伝達よりも、受講者それぞれに関心をもって主体的に考えてもらうことを目指したい。

## 達成目標

科学に関する（あるいは、科学っぽい）身の回りの言説に対して、批判的態度で考えられるようになること。また、哲学的なものの見方や議論の方法を身につけること。これら2つの目標を達成するためには、言葉の使い方に注意深くする必要があり。例えば、「科学的 / 非科学的」や「客観的 / 主観的」などの言葉をなんとなく使うことなく、その意味は何かということに自然と注意・反省が向かうようになれば、十分な目標達成である。

## スケジュール

- 第1回 講義のガイダンス・科学哲学の紹介
- 第2回 帰納法
- 第3回 仮説演繹法
- 第4回 反証主義
- 第5回 パラダイム論 (前半)
- 第6回 パラダイム論 (後半)
- 第7回 社会構成主義
- 第8回 論文を読む1: 科学と疑似科学の線引きは歴史に相対的か
- 第9回 論文を読む2: 科学と疑似科学の線引きは疑似問題か
- 第10回 論文を読む3: 科学と疑似科学の線引きは社会にとって重要か
- 第11回 中間レポートへのフィードバック (講義の進行が遅れる場合の予備)
- 第12回 事例分析1: 血液型性格判断
- 第13回 事例分析2: 占星術
- 第14回 事例分析3: 創造科学
- 第15回 自然科学と社会科学 (講義の進行が遅れる場合の予備)

## 教科書・参考文献

教科書 ハンドアウトおよび文献資料を適宜配布する。

参考書 伊勢田哲治『疑似科学と科学の哲学』（名古屋大学出版会、2003年）、戸田山和久『科学哲学の冒険』（日本放送出版協会、2005年）

## 授業外での学習

授業内容に関わる文献資料を配布する（アップロードする）ので、予習として目を通して頂くこと。また、レポート課題に取り組むこと。教科書は指定しないが、上記の参考文献等（講義中にも紹介する）を自分で読んでおくことで、授業へのついていきやすさが違うはず。

## 評価方法

リアクションペーパー（15%）、中間レポート（25%）、学期末レポート（60%）。ただし、出席者が多い場合は、学期末レポートに代えて、論述式の学期末試験で評価を行う可能性がある。ディスカッションやグループワークは行わない。

## 履修上の注意

哲学の議論は、単に聞く・読むだけでなく、自分でも考えてみる（それを文章にまとめてみる）ことで、はじめてよくわかるという面がある。受け身の姿勢ではなく、「なぜこんな問題をわざわざ考える必要があるのか」という自分なりの問題意識を持って講義を受けてほしい（そのほうがきっと楽しい）。上述の通り、評価方法は出席者数を見てから決めるつもりなので、ご理解をお願いしたい。

科目名 教育哲学  
Title Philosophy of Education  
科目区分 一般教養科目

担当教員 池野 正晴 (イケノ マサハル)  
名譽教授 池野 正晴 (イケノ マサハル)  
担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4  
単位区分 選択必修  
単位数 2  
開講時期 前期

## 目的

- 教育事象・教育現象や教育活動について哲学的・科学的に探究し、教育及び教師のあるべき方向について自分なりに考える力を修得する。

## 達成目標

- 1 教育の本質・目的についてさまざまな考え方及びその違いが理解できる。
- 2 さまざまな教育思想が理解できる。
- 3 教育事象・教育現象について、自分なりに考えることができる。

## スケジュール

- 第1回 教育とは何かI - 「教」と「育」 -
- 第2回 教育とは何かII - 「教育」の出現 -
- 第3回 人間モデルの教育I - 手細工モデルと農耕モデル -、家族と社会
- 第4回 人間モデルの教育II - 飼育モデル -、現代の教育課題
- 第5回 人間モデルの教育III - 人間モデル -、教育制度の歴史と発展
- 第6回 実存モデル・非連続的形式の教育I - 実存哲学と実存モデル -
- 第7回 実存モデル・非連続的形式の教育II - 新たな連続性モデルと教育的雰囲気 -
- 第8回 新優生学と教育の問題I - パーフェクト・ベイビーと優生学、発達障害 -
- 第9回 新優生学と教育の問題II - 新優生学の登場 -
- 第10回 新優生学と教育の問題III - ハーバース、ルーマン、レヴィナス、サンデル -
- 第11回 教育思想の4つのパターン (アメリカ)
- 第12回 社会と教育 - 脱学校論、銀行型教育批判等 -
- 第13回 教育諸現象 (いじめ等) における哲学的考察
- 第14回 道徳教育を哲学する
- 第15回 性の多様性と特別ニーズ教育の問題

## 教科書・参考文献

- 教科書 ○ 池野正晴『教育原理 / 教育哲学』(池野作成の授業用冊子 / 配付)
- 参考書 ○ 池野正晴『新しい時代の授業づくり』、東洋館出版社、2019年(6刷)  
○ 寺崎・古沢・増井・池野他『名著解題』、協同出版(教職課程新書)、2009年

## 授業外での学習

- 次回の該当箇所をよく読んで、ノートにまとめておく。
- 印刷テキストの、次回該当箇所の空欄部分について、自分なりに考えて、用語をうめておく。
- レポートとして取り上げたいテーマについて、経験や新聞・参考文献等を集め、少しずつまとめておく。

## 評価方法

- レポート(作成、発表、ミニレポート) 60%
- 参画度(コメント、グループ討論、貢献度、積極的な参加度等) 40%

## 履修上の注意

- 参考文献・参考図書等については、その都度紹介する。
- 受講にあたりたいせつなことは、「その場において考え、話し合いに参加すること」であり、そのことが「哲学する」ということにつながる。
- ペアワークやグループ討論では、積極的に参加し、自分の意見を表現し、相手の意見も尊重しながら聴く。

科目名 教育心理学  
Title Educational Psychology  
科目区分 一般教養科目

教授 担当教員 木下 まゆみ (キノシタ マユミ) 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4 単位区分 選択必修 単位数 2 開講時期 後期

## 目的

この科目では、教育の受け手としての「人」の理解を目的とし、発達（人はどのように成長するのか）、学習（人はどのように学ぶのか）に関する心理学的知見を学ぶ。さらに、それらの知識を実際の教育活動にどのように結び付けていくのかを考える。

## 達成目標

心身の発達に関する学術的研究の知識を習得し、それに基づく人に対する多角的視点から、教育活動を理解することができる。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス 発達における遺伝と環境
- 第2回 発達1 乳幼児の心身発達
- 第3回 発達2 認知の発達（感覚運動期から前操作期まで）
- 第4回 発達3 認知の発達（具体的操作期から形式的操作期まで）
- 第5回 発達4 仲間意識の発達
- 第6回 発達5 わたし意識の発達
- 第7回 学習1 経験から学ぶ - 学習理論 -
- 第8回 学習2 ごころの重視 - 動機付け -
- 第9回 学習3 記憶と忘却の仕組み
- 第10回 学習4 転移の促進と抑制
- 第11回 適応 子どもを巡る環境の変化
- 第12回 学級づくり1 ソーシャル・スキル
- 第13回 学級づくり2 構成的グループエンカウンター
- 第14回 心身障害児の理解と教育 発達障害の理解
- 第15回 総括授業

## 教科書・参考文献

教科書 授業中にプリントを配布する。

参考書 適宜紹介する。

## 授業外での学習

授業は、大きく3つのテーマに分かれて展開する。同一テーマの授業は、内容が連続しているため、配布プリント・資料等で前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、教育に関するニュースにも関心を持ち、日頃から積極的に情報収集を行うこと。

## 評価方法

定期試験50%、平常点：50%（小テスト、および各回で授業の要約を作成）

## 履修上の注意

欠席回のプリントは、自己都合の場合、後日配布しません（公欠を除く）。授業の進行上、シラバスの内容を変更する場合がある。  
なお、人格・知能については、別に開講する「教育測定及び方法」にて詳しく取り上げるため、関心のあるものはそちらも受講すること。

科目名 心理学  
Title Psychology  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
教授 木下 まゆみ (キノシタ マユミ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
1~4

単位区分  
選択必修

単位数  
2

開講時期  
前期

## 目的

この科目では、身近な問題に関する心理学的研究を取り上げる。1. 認知（人はどのように考えるのか）、2. 発達（人はどのように外界を理解していくのか）、3. 社会（人はどのように他者と関わるのか）、4. 臨床・健康（人はどのように癒されるのか）、といったテーマに関して、研究の解説を行う。また、脳科学など心理学との結びつきが強い学際的研究も紹介していく。

## 達成目標

研究の視点と日常の視点の違いを考えることにより、「こころ」に対する心理学的なアプローチとは何かについて、理解を深める。自己の「こころ」について洞察し、個々の課題を見出し、日常生活で実践する。

## スケジュール

第1回	初回ガイダンス	心の研究法
第2回	心理学と測定	心理尺度
第3回	臨床心理学	交流分析
第4回	社会心理学	対人関係
第5回	社会心理学	社会的認知
第6回	健康心理学	ストレスへの対処
第7回	社会心理学	社会的比較
第8回	臨床心理学	認知と感情
第9回	認知心理学	視覚
第10回	複合領域	食と心
第11回	発達心理学	青年期の心
第12回	学習心理学	条件付け
第13回	学習心理学	動機付け
第14回	発達心理学	発達障害とその理解
第15回	総括	

## 教科書・参考文献

教科書 木下まゆみ『心と付き合うための心理学』北樹出版

参考書 授業にて参考文献を紹介する。

## 授業外での学習

紹介する参考文献は、図書館に配架済、または近日配架予定のものである。各自の関心に沿って、最低1冊は読了すること。

## 評価方法

期末試験（50%）と各回のリアクションペーパー（50%）を総合して評価する。

## 履修上の注意

講義内容は、受講生の関心に沿って変更することがある。私語は慎むこと。

科目名 社会学  
Title Sociology  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 李 杏理 (リ ヘンリ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1~4	選択必修	2	後期

## 目的

本講義では、現代社会の理解に欠かせない格差、公共性、ナショナリズムを扱う。現代は格差社会と言われて  
いるが、それはどの程度のものが。格差を生むメカニズムはいかなるものが。社会学の知見をもとに現代を考察  
し、歴史社会学の視角からその背景とメカニズムを読み解く。

まず、社会学の基本的な枠組みや概念を学ぶ。次に、社会・経済・哲学・歴史にまたがる主要テーマをいくつ  
か取り上げ、それらの考察を通して、私たちの身の回りにおける社会問題や社会現象について歴史社会学のアクチ  
ュアリティ(学問の根本原理に迫るような問いへの現在のあり方)から捉え直す。

## 達成目標

- (1) 社会学の基本的な用語、概念、理論を理解する
- (2) 世界人権宣言と国際人権規約に刻まれたことがどのような世界史的意味をもち、これを具体的にどのよ  
うに実践・発展させるのかについて考える

## スケジュール

- 第1回 インタロクシオン
- 第2回 公共性と親密性
- 第3回 相互行為と自己
- 第4回 社会秩序と権力
- 第5回 組織とネットワーク
- 第6回 文化と再生産
- 第7回 社会運動と社会構想
- 第8回 中間テスト
- 第9回 医療・福祉と自己決定権
- 第10回 格差と階層化(1)
- 第11回 格差と階層化(2)
- 第12回 国家とグローバリゼーション(1)
- 第13回 国家とグローバリゼーション(2)
- 第14回 エスニシティと境界
- 第15回 歴史と記憶

## 教科書・参考文献

教科書 長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志『社会学』、有斐閣、2007年ほか、教員作成の教材(レ  
ジューメ)を配布する。

参考書 竹内章郎、吉崎祥司『社会権：人権を実現するもの』、大月書店、2017年。大谷禎之介『図解 社会  
経済学』、桜井書店、2001年ほか、授業時に提示する。

## 授業外での学習

講義と関連するテーマや自身の関心事について新聞や時事・社会雑誌など複数の情報ソースにあたっておく。次  
回講義と同タイトルの教科書該当ページを読んでおく。資料を再読し、分からない箇所を教員に聞くか、自ら調  
べる。期末レポートで自身が取り上げたいテーマについては、参考図書や論文等を探して読んでおく。

## 評価方法

- ① 中間テスト 選択と記述問題 40% (持ち込み不可)
- ② 期末レポート 自ら問いを立て、それを論証する。参考文献は3つ以上(ネット記事不可)使う。 60%  
(8000字程度を予定)

## 履修上の注意

講義中、貧困、差別・暴力、いじめ・迫害、自死などに関連する内容や映像を一部扱うことがある。(途中入退  
出可。出席点をとらない)

本講義では家族とライフコース、ジェンダーとセクシュアリティについて主題的に扱わないため、同教員による  
「ジェンダー論」と合わせて受講することを推奨する。

科目名 ジェンダー論  
Title Gender Studies  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 李 杏理 (リ ヘンリ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

ジェンダー概念は、普遍的で中立的とされる「市民」「人権」「国民」という枠に覆われた問題を明らかにしてきた。性差がどのように自明とされ社会化されてきたのか、ジェンダーとセックスの理論的変遷から見ていく。また、家族、労働、暴力、身体といった社会事象にどのようなジェンダー差が現れているかを分析する。差異が自然化されることで差別が維持されてきた社会関係には、ジェンダーのみならずセクシュアリティ(性現象)、階級/階層、人種/国籍、能力/障害が存在する。これらの差異は歴史的にどのように意味づけられ、ジェンダーと関連しながら現代に影響を及ぼしているのか。ジェンダー研究および社会科学の領域横断的な知見を取り入れ、社会運動、国際動向を踏まえて、ダイバーシティ(多様性)に関する批判的視座を養う。

## 達成目標

①ジェンダー研究の概説的な知見を習得する。②現代の〈性〉にまつわる現象と社会規範について基礎知識を得る。③〈性〉にかかわる諸現象について、社会的・歴史的背景のみならずそれを成り立たせている文化や個人人の認識を分析する視角を身につける。④表面的な知識で分かった気になることは無知よりも悪いことがありうる。期末レポートで実証・理論・映画・文学を複数参照の上、独自に論究することが単位修得の要件。

## スケジュール

- 第1回 「人間」とは何か?—人権の歴史と理論
- 第2回 身近にどのようなジェンダー規範があるか?—家族とジェンダー
- 第3回 ジェンダーとは何か?(1)—性のグラデーション
- 第4回 ジェンダーとは何か?(2)—境界と認識
- 第5回 性差別はなくなったのか?—雇用とジェンダー
- 第6回 女性解放運動・男性解放運動とは何か?—歴史的プロセス
- 第7回 ジェンダーギャップをなくすとは?—政策と文化
- 第8回 性的自己決定とは?—性暴力・DV・犯罪
- 第9回 クィアとは何か?(1)—理論と新たな潮流
- 第10回 クィアとは何か?(2)—ドキュメンタリー映画上映
- 第11回 生まれにもとづく差別はなくなったのか?—人種とジェンダー
- 第12回 国民とは何か?—エスノセントリズムとジェンダー
- 第13回 「慰安婦」問題が問うたものとは?—戦争・植民地主義とジェンダー
- 第14回 優生思想とは何か?—能力・障害とジェンダー
- 第15回 来るべき世界のための思考とは?—差別廃絶をめぐる世界の動き

## 教科書・参考文献

教科書 特定のものを使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書 ベル・フックス『フェミニズムはみんなのもの』堀田碧訳、新水社、2003年。  
加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣、2017年、ほか授業中提示。

## 授業外での学習

配布資料の統計データおよび引用文献を可能な限り通読し、理解できなかった点は随時質問すること。講義では広くさまざまなテーマを取り扱うが、とくに関心のあるテーマについてはさらに掘り下げて自ら探究した内容を期末レポートに書くこと。また、中間レポートで映評の課題を出すため関連映画を視聴すること。

## 評価方法

- ①講義感想 10% (出席点はとらない)
- ②中間レポート 指定した映像・文献リストから1つを選んで映評または書評を書く 20%
- ③期末レポート 参考文献を3つ以上読んでレポートを書く 70% (8000字程度を予定)

## 履修上の注意

講義中、性的・暴力的描写を含む映像資料を上映する。(入退出自由)

科目名 法学  
Title Law  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 辻 健太 ( ツジ ケンタ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 前期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

本講義では日本の法制度を主たる素材にして、法学の意義と法学の基本的な考え方・学び方を身につけ、来学期以降の法学科目の学習が充実したものとなるための足懸かりを得ることを目的とする。今年度も「習うより慣れる」の精神で、いきなり実際の判決文を読むことに挑戦したい。判決文を読み進めながら折々にも解説するが、後半に改めて、法概念論、法史学、法源論、法体系論、法解釈学などの基礎的な講義をして、結局私たちが学んできたことは何だったのかを確認してまとめとしたい。

## 達成目標

この授業を履修することにより、経済学部 of 学生諸君が、自分の専攻分野の研究手法・考え方と比べた場合の法学特有の考え方について、おおむね理解することを目標とする。

## スケジュール

- 第1回 オリエンテーション：講義内容の見取り図・学習法・参考文献等の指示。
- 第2回 判例の探し方・読み方
- 第3回 昭和25年尊属傷害致死事件判決を読む(1)
- 第4回 昭和25年尊属傷害致死事件判決を読む(2)
- 第5回 昭和25年尊属殺人事件判決を読む
- 第6回 昭和48年尊属殺人事件判決を読む(1)
- 第7回 昭和48年尊属殺人事件判決を読む(2)
- 第8回 法とは何か
- 第9回 法学はどのようにして生まれたか
- 第10回 現在の日本の裁判制度
- 第11回 裁判の基準となるもの
- 第12回 法の解釈
- 第13回 法学はどんな意味で社会の役に立つのか
- 第14回 国際社会と法
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

- 教科書 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣、2005年）、中山竜一『ヒューマニティーズ 法学』（岩波書店、2009年）、最新版の六法。
- 参考書 教場で指示する。

## 授業外での学習

参考文献を手掛かりに毎回着実に予習・復習を行うこと。

## 評価方法

期末レポート（85%）、毎回の復習レポート（15%）で評価する。単なる出席は評価の対象にならない。

## 履修上の注意

とにかく勉強してください。

科目名 日本国憲法  
Title The Constitution of Japan  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 辻 健太 ( ツジ ケンタ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
1~4

単位区分  
選択必修

単位数  
2

開講時期  
後期

## 目的

日本国憲法に関する学説・判例を主たる素材にして立憲主義や民主主義といった憲法の基本原理を学習し、それを通して憲法は何のために存在するのかという基本的かつ根本的な問題の理由を探ることを目的とする。

## 達成目標

憲法の基本原理をおおむね理解した上で、身の周りで生じるさまざまな憲法問題を自分自身で考える力を涵養することを目標とする。

## スケジュール

- 第1回 オリエンテーション：講義内容の見取り図・教科書・参考文献等の指示を行う。
- 第2回 なぜ立憲主義か
- 第3回 憲法を尊重するとはどういうことか：憲法改正と憲法尊重擁護義務
- 第4回 日本国憲法は押しつけ憲法か：日本憲法史
- 第5回 平和主義とは何か
- 第6回 主権が国民に存するとはどういうことか
- 第7回 国民主権とは国籍保有者主権か：参政権
- 第8回 二院制は無駄か
- 第9回 議院内閣制の本質とは
- 第10回 憲法の番人の意義
- 第11回 誰に／何を／誰から／いかにして保障するか：人権総論
- 第12回 国歌の押しつけは思想の押しつけか：思想良心の自由
- 第13回 宗教を理由に義務を免除できるか：信教の自由
- 第14回 表現の自由の優越的地位
- 第15回 健康で文化的な最低限度の生活をいかに保障するか

## 教科書・参考文献

- 教科書 君塚正臣ほか『大学生のための憲法』（法律文化社、2018年刊行予定）、野中俊彦・江橋崇編著、渋谷秀樹補訂『憲法判例集（第11版）』（有斐閣、2016年）。最新版の六法。
- 参考書 川岸令和ほか『憲法（第4版）』（青林書院、2016年）、君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法（第3版）』（法律文化社、2017年）ほか。詳細は教場で指示する。

## 授業外での学習

各回で示す参考文献を手掛かりにして予習・復習をすること。

## 評価方法

期末レポート（85%）、毎回の復習レポート（15%）で評価する。単なる出席は評価の対象にならない。

## 履修上の注意

法学と同じです。法学も憲法学も、「入るは易し、出るは難し」。大いに学問に取り組み、大学で勉強したという実感を持って卒業したい人の参加を心から望みます。

科目名 国際法  
Title International Law  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
教授 梅島 修 (ウメジマ オサム)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

国際法は、国と国との関係を規律し、日々変化する国際社会の秩序を作る、生きたルールです。「国」とは何でしょうか。国はどのような権利があり、他国に対してどのような義務を負っているのでしょうか。これに、国際機関はどのように関わっているのでしょうか。さらに、国際的な物品やサービス取引、投資、さらにはデジタル貿易が発展する中で、国際法はどのような役割を演じているのでしょうか。  
本講では、米国ニューヨーク州及びワシントンDC弁護士として、また経済産業省通商政策局通商機構部通商交渉調整官として得た国際法実務の経験を活かし、国際法の成立と基本的な考え方から始め、現在、確立している重要な国家間の合意と規律、さらに民間の国際経済活動の支援と制約に関わる制度的枠組みについて検討してゆくとともに、まさに、今、動いている国際問題に国際法がどのように関係しているのか、考えてゆきます。

## 達成目標

国際社会において活動するための規範としての規則を学び、その基本的な考え方について理解する。  
さらに、それらを現実的問題に応用できるようになることを目指す。

## スケジュール

- 第1回 身近な国際法 - 国際法は我々の生活にどのようにかかわっているか。
- 第2回 国際法とは - 国内法と国際法はどのように異なるのか。
- 第3回 パレスチナ、コソボ、ISは「国」か - 文明国、不平等条約、独立、国家承認、そして民族自決
- 第4回 「国」はどのような権利を有するのか - 国家主権、外交特権
- 第5回 国は自国民そして他国民をどこまで保護するべきか - 大使館、領事館、庇護権、外交的保護、難民。
- 第6回 正義の闘いはあるのか - 正戦論、自衛権、核兵器廃絶
- 第7回 「国」は国際社会にどのような義務を負っているのか - 国家責任
- 第8回 武力ではない国家間の紛争解決 - 集団安全保障、国際司法裁判所、WTO紛争解決
- 第9回 国の領土はどのようにして決せられてきたか - 自国領土の確立と保全、国境紛争
- 第10回 なぜ沖ノ鳥島は「島」でなければならないか? - 領海、領空、大陸棚、排他的経済水域
- 第11回 国際組織の発展とその役割 - 国際連盟、国際連合、IMF/世界銀行、GATT/WTO
- 第12回 人権は誰が守るのか - 人権保障の国際化
- 第13回 地球規模での環境保護 - 京都議定書、貿易と環境
- 第14回 外国投資は保護されるのか - 投資家の保護、投資協定、投資家対国家の紛争解決 (ISDS)
- 第15回 自由貿易協定(EPA/FTA/TPP)は脅威か、チャンスか - 関税減免の約束、原産地規則

## 教科書・参考文献

教科書 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集』三省堂(2015)

参考書 渡部茂己・喜多義人『国際法[第3版]』弘文堂(2018)  
小寺彰・森川幸一・西村弓『国際法判例百選 第2版』別冊ジュリスト204 有斐閣(2011)

## 授業外での学習

日常から、国際的な紛争に広く目を向け、紛争当事者の主張、基本的対立点について自分なりに考えておく。

## 評価方法

期末筆記試験70%、平常点30%

## 履修上の注意

講義において、質問を投げかけてゆく。学生諸君の積極的参加を期待する。

科目名 政治学  
Title Politics  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
准教授 土谷 岳史 (ツチヤ タケシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
1~4

単位区分  
選択必修

単位数  
2

開講時期  
前期

## 目的

本講義では国内政治と国際政治の分化という近代的秩序の基本構図について確認したうえで、自由や平等、権力といった政治の基本的な問題系を理解することを目的とする。これらの概念の意味内容や境界は歴史的に常に揺れ動いてきたことを明らかにしたい。その上で現代の諸問題を考えるための基本的な視座を提供したい。

## 達成目標

近代政治の土台となる構造（国内政治と国際政治）の成り立ちを理解する。  
自由概念の歴史的変遷を学ぶ。  
自由と平等の関係性を理解する。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション：本講義の概要・目的
- 第2回 領域主権国家と国民の誕生
- 第3回 ネーション-ステートとしての日本の誕生①
- 第4回 ネーション-ステートとしての日本の誕生②
- 第5回 近代的ジェンダー構造①
- 第6回 近代的ジェンダー構造②
- 第7回 自由・平等・権力① - 1：夜警国家
- 第8回 自由・平等・権力① - 2：自由放任主義
- 第9回 自由・平等・権力② - 1：自由主義の修正
- 第10回 自由・平等・権力② - 2：福祉国家
- 第11回 自由・平等・権力② - 3：行政国家
- 第12回 自由・平等・権力③ - 1：新自由主義国家
- 第13回 自由・平等・権力③ - 2：新自由主義の権力
- 第14回 自由・平等・権力③ - 3：日本における自由と平等
- 第15回 講義全体のまとめ

## 教科書・参考文献

教科書 とくになし

参考書 講義で指示する

## 授業外での学習

講義の復習のほか、新聞などでの積極的な情報収集をしておくこと。

## 評価方法

基本的にテストまたはレポートで100%評価するが、毎回の講義でのリアクションペーパーも考慮する。

## 履修上の注意

現実の政治情勢に従い、講義内容は変更することがある。  
毎時間の講義の1/3ほどは履修者からの質問・コメントへの応答にあてる予定である。

科目名 日本政治  
Title Japanese Politics  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 仲田 教人 (ナカタ ノリヒト)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

わたしたちがものを考える際に、基本的な所与としている「日本」や「政治」といった概念を根底からとらえ直し、日本政治について、さまざまな観点から思考できる力を身につけることを目指します。

## 達成目標

上記の目的を達成すること。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション：大学で「日本政治」を学ぶことについて / 思想史という方法論
- 第2回 日本政治と資本主義①：資本主義をどう理解するか
- 第3回 日本政治と資本主義②：資本主義の発達と「囲い込み」
- 第4回 日本政治と資本主義③：「共産主義」と資本主義
- 第5回 天皇制①：古代天皇制
- 第6回 天皇制②：国家神道の成立
- 第7回 天皇制③：象徴天皇制
- 第8回 アナキズム
- 第9回 官僚制
- 第10回 民主主義と選挙制度
- 第11回 政治参加①：住民運動（反公害運動と住民自治）
- 第12回 政治参加②：市民運動（反戦 / 反基地運動）
- 第13回 政治参加③：「女性」の運動
- 第14回 エネルギー政策
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 特になし。

参考書 毎回の講義で提示します。

## 授業外での学習

毎回の講義で提示される参考文献を読み、思考を深めること。

## 評価方法

期末レポートで評価します (100%)。

## 履修上の注意

講義スケジュールは前後することや、内容が変更されることがあります。全体の進行については、第一回の授業で詳細を説明します。

科目名 国際関係論  
Title International Relations  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
准教授 土谷 岳史 (ツチヤ タケシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
1~4

単位区分  
選択必修

単位数  
2

開講時期  
前期

## 目的

本講義では国際関係の成り立ちから現代の国際社会の問題までを歴史的に取り扱う。「国際関係」が近代的な秩序であり、「国際関係論」が総力戦の衝撃を受けて20世紀に生まれた学問であること、その学問の目的と国際関係論に突きつけられた現代の課題を理解することを目指す。

## 達成目標

国際関係の特徴を、複数の観点から理解する。  
戦争と正義の関係を把握する。  
国際関係論自体が世界認識の方法であることを理解し、その認識方法の限界を学ぶ。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション：本講義の概要・目的
- 第2回 国際関係の成り立ち：ウエストファリア体制とはなにか？
- 第3回 18～19世紀：勢力均衡
- 第4回 18～19世紀：文明 / 野蛮
- 第5回 近代国家としての日本の誕生
- 第6回 総力戦と戦争違法化①：第1次世界大戦と兵器の革新
- 第7回 総力戦と戦争違法化②：第1次世界大戦と時間の政治
- 第8回 総力戦と戦争違法化③：第2次世界大戦と無差別爆撃
- 第9回 総力戦と戦争違法化④：第2次世界大戦とレイシズム
- 第10回 総力戦と戦争違法化⑤：人道に対する罪
- 第11回 平和の模索：国際連盟
- 第12回 平和の模索：国際連合
- 第13回 国際政治学の誕生
- 第14回 植民地の独立：ナショナリズムとポストコロニアリズム
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 とくになし

参考書 講義で指示する

## 授業外での学習

講義の復習のほか、参考文献を読むこと。

## 評価方法

基本的にテストまたはレポートで100%評価するが、毎回の講義でのリアクションペーパーも考慮する。

## 履修上の注意

現実の国際情勢に従い、講義内容は変更することがある。  
毎時間の講義の1/3ほどは履修者からの質問・コメントへの応答にあてる予定である。

科目名 西洋史  
Title European History  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 宮川 剛 (ミヤガワ ツヨシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

本講義は、中世から近代のヨーロッパの社会や歴史に様々な角度から光をあてて、世界史におけるヨーロッパの役割、他の地域・文明に与えた影響などをさぐる。現代世界形成に大きな役割を果たしたヨーロッパの歴史的背景について理解を深めることで、グローバル化の進んだ現代にふさわしい教養・認識を身につけることを目指す。

## 達成目標

中世から近代のヨーロッパの政治、経済、宗教など、毎回設定したテーマについての講義を通じて基本的な知識を身につけるとともに、講義の内容に関係する資料を読み込むことで、現代世界の諸問題の歴史的背景を理解する。

## スケジュール

- 第1回 インTRODクシヨン：西洋史概説
- 第2回 西洋中世社会
- 第3回 主権国家体制の確立
- 第4回 宗教改革
- 第5回 宗教改革の社会的影響
- 第6回 大航海時代とその影響
- 第7回 近世イギリスの海外進出
- 第8回 17世紀の「危機」
- 第9回 イギリスにおける内乱
- 第10回 啓蒙と改革
- 第11回 アメリカの独立
- 第12回 イギリスの産業革命
- 第13回 フランス革命
- 第14回 自由主義とナショナリズム
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 授業中に指示する。

## 授業外での学習

前回の授業中に指示した事柄について、事前に参考図書などで調べておくこと。  
授業後はノートや配布資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。

## 評価方法

テスト：100%。

## 履修上の注意

高等学校の「世界史」の知識を前提として講義します。

科目名 東洋史  
Title Asian History  
科目区分 一般教養科目

担当教員 担当教員との連絡方法  
非常勤講師 野口 周一 ( ノグチ シュウイチ )

E-Mail

配当年次  
1~4

単位区分  
選択必修

単位数  
2

開講時期  
前期

## 目的

「中国4000年の歴史」と一口にいいますが、中国は漢民族と55の少数民族からなる多民族国家であり、その理解にはなかなか難しいところがあります。その錯綜した部分を丁寧に解きほぐしながら考えていきます。なお、全15講では遺憾ながら近現代史までは到達できません。ご承知おきください。

## 達成目標

このところ、日中間の「軋み」が問題化しています。その中国を「正しく」理解するために、まずはその扉を開く力をつけることを目標とします。

## スケジュール

- 第1回 中国文明の黎明：北京原人の謎、最新の考古学的成果について。
- 第2回 秦の統一：まずは咸陽の都と始皇帝の陵墓について。
- 第3回 漢の政治：武帝の治世と司馬遷の劇的な生涯について。
- 第4回 三国時代：『三国志』の世界を中心に。
- 第5回 両晋時代：魏の将軍司馬氏、卑弥呼の遣使について。
- 第6回 南北朝時代：仏教の興隆を中心に。
- 第7回 隋唐の統一（1）：隋の煬帝と聖徳太子、唐の玄奘を中心に。
- 第8回 隋唐の統一（2）：玄宗皇帝と楊貴妃、杜甫を中心に。
- 第9回 宋朝の内外：五代十国から宋の成立、遼・西夏・金との関係。
- 第10回 元朝の支配：チンギス・カンからクビライ・カンへ、「元寇」の意味について。
- 第11回 明朝の興亡（1）：洪武帝から永楽帝の時代について。
- 第12回 明朝の興亡（2）：蘇州の繁栄、「北虜南倭」を中心に。
- 第13回 清朝の成立：明から清へ。
- 第14回 清朝の盛世：康熙帝から乾隆帝の時代を中心に。
- 第15回 清朝の衰退：アヘン戦争を中心に。

## 教科書・参考文献

教科書 野口周一、石井智子『東アジア史概説』【前近代編】世音社、2018年

参考書 講義時に適宜ご紹介します。

## 授業外での学習

膨大な「中国4000年の歴史」を学ぶわけですが、授業はポイントしてトピックをあげ解説していきます。その背景をテキストを利用して学ぶことを課題とします。

## 評価方法

授業への取り組み：15%、試験：85%。

## 履修上の注意

授業に出なければ意味がありません。しかし、内容を暗記することは求めません。試験は持ち込み可で実施します。

科目名 中国文化論  
Title Chinese Culture  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
講師 笠見 弥生 (カサミ ヤヨイ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
1~4

単位区分  
選択必修

単位数  
2

開講時期  
後期

## 目的

かつて日本で学問をするといえば、中国の古典を読むことであつたといつても過言ではない。中国の古典は日本の思想や文化にも多大な影響を及ぼし、現代にも確実に受け継がれている。しかし、書名や名前を聞いたことがあつても、内容を知らないものが多いのではないだろうか。本授業では、中国の古典の中から最も有名なものをいくつか選び、その成立や内容について基礎的な知識を得ることを目的とする。

## 達成目標

中国古典の基本的な文献や人物について、その成立と内容について簡単な説明ができるようになる。

## スケジュール

第1回	イントロダクション	
第2回	思想篇 (1)	『論語』 ①
第3回	思想篇 (2)	『論語』 ②
第4回	思想篇 (3)	『礼記』 ①
第5回	思想篇 (4)	『礼記』 ②
第6回	思想篇 (5)	『孝経』
第7回	思想篇 (6)	『老子』
第8回	思想篇 (7)	『莊子』
第9回	思想篇 (8)	“朱子学”
第10回	詩文篇 (1)	『詩経』
第11回	詩文篇 (2)	『楚辞』
第12回	詩文篇 (3)	『文選』
第13回	詩文篇 (4)	李白
第14回	詩文篇 (5)	杜甫
第15回	詩文篇 (6)	白居易

## 教科書・参考文献

教科書 特になし。プリント等を配布。

参考書 松原朗ほか『教養のための中国古典文学史』(研文出版、2009)、湯浅邦弘『教養としての中国古典』(ミネルヴァ書房、2018)。その他、授業中に紹介する。

## 授業外での学習

配布プリントや参考文献に目を通すなどして、自分なりに知識を広げること。「東洋史」、「中国古典研究」等の関連授業と合わせての受講も推奨する。

## 評価方法

平常点(提出物、発言内容等)40%、期末試験60%。

## 履修上の注意

中国を深く理解する意欲のある学生の受講を歓迎する。なお、上記のスケジュールはあくまで目安であり、授業の進行状況によって変更する場合がある。

科目名 イスラーム文化論  
Title Islamic Culture  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 山下 真吾 (ヤマシタ シンゴ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1~4	選択必修	2	前期

## 目的

企業の世界進出が進む中、日本のビジネス界はイスラーム文化圏へも関心を向けつつある。しかし、我々はイスラームについて学ぶ際、イスラーム文化圏はイスラームという宗教に由来する文化と、地域固有の文化が入り混じる世界であることを見落としがちである。本授業ではイスラームの統一性と多様性をテーマに、イスラーム文明の歩みを概観し、歴史と現代とのつながりを考察する。また14億人にも達するイスラーム教徒の世界を理解するとともに、美しいイスラーム建築や美術、文学の世界を鑑賞したい。

## 達成目標

なじみの薄いイスラーム文化圏に関する知識を身につけ、グローバル社会における、他者への理解を深める。異文化交流の視点から自分たちの社会を捉え直す。

## スケジュール

第1回	イントロダクション
第2回	イスラームとは何か (1) 教義と実践 (六信五行など)
第3回	イスラームとは何か (2) イスラームの人間観、社会観
第4回	現代社会におけるイスラーム (1) ハラルビジネスとは?
第5回	現代社会におけるイスラーム (2) イスラーム金融とは?
第6回	歴史のなかのイスラーム (1) イスラームの誕生
第7回	歴史のなかのイスラーム (2) イスラーム国家の発展
第8回	歴史のなかのイスラーム (3) イスラーム文化圏の近代化
第9回	イスラームの知と文明 (1) イスラーム科学
第10回	イスラームの知と文明 (2) イスラーム文化圏の諸文化 (アラブ、トルコ、イラン文学を中心に)
第11回	イスラームの知と文明 (3) イスラーム文化圏の音楽
第12回	イスラームの美術 (1) イスラームの建築
第13回	イスラームの美術 (2) イスラームの美術
第14回	イスラームの美術 (3) イスラームの工芸
第15回	統括授業

## 教科書・参考文献

教科書 特になし。

参考書 授業で適宜紹介します。

## 授業外での学習

授業範囲に関連する項目について、参考書などに目を通し予習すること。また授業後はノートや配布資料などに目を通し復習すること。

## 評価方法

受講状況40%、レポート60%

## 履修上の注意

授業はレジュメ等の資料を配布し、また適宜パワーポイントを使用して進めます。高校世界史や地理の知識がない人でも理解できるように授業を進めていきます。授業で配布される感想用紙には授業で学んだこと、感想・疑問などを記してください。

科目名 宗教学  
Title Religion  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 下村 育世 (シモムラ イクヨ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
1~4

単位区分  
選択必修

単位数  
2

開講時期  
後期

## 目的

本講義では、宗教学の基本的な考え方や概念をつかみ、諸宗教（仏教、キリスト教、イスラーム等）の特徴を概括的に学んだ上で、現代の日本の宗教状況、そしてそれらを考え・捉えるにあたって欠かすことのできない日本の宗教史、すなわち宗教に関する制度、慣習などの変遷について学ぶ。本講義では、近代を中心に扱う。

## 達成目標

宗教学の基本的な考え方や概念を理解し、諸宗教についての基本的な知識を身につけた上で、様々な宗教に関わる問題を多様な視点から自分自身で考える力を涵養する。

## スケジュール

第1回	ガイダンス	「宗教」の学び方
第2回	「宗教」への視角	宗教学とそのなりたち
第3回	日本における宗教の概観 1	日本人は無宗教なのか？
第4回	日本における宗教の概観 2	全国の宗教学法人数18万とは？
第5回	日本における宗教の概観 3	信教の自由をめぐる問題① 政教関係をめぐる問題
第6回	日本における宗教の概観 4	信教の自由をめぐる問題② 「カルト」問題
第7回	キリスト教と日本 1	世界の宗教分布とキリスト教
第8回	キリスト教と日本 2	近世の宗教統制
第9回	イスラームと日本	
第10回	仏教と日本 1	
第11回	仏教と日本 2	「葬祭仏教」の変遷
第12回	近代国家と宗教 1	神仏分離と国家神道体制
第13回	近代国家と宗教 2	新宗教の発生と特徴
第14回	近代国家と宗教 3	戦争と宗教統制
第15回	近代国家と宗教 4	戦後の宗教

## 教科書・参考文献

教科書 特定の教科書は指定しない。毎回の講義で配布する資料に、下記参考文献該当ページとともに、参考図書等を提示する。

参考書 櫻井義秀・平藤喜久子編著『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房、2015年。その他、講義中に具体的なテーマに即して適宜紹介する。

## 授業外での学習

以下のような復習を指示する。

(復習) 講義を聞いた上で、参考図書の指定ページを読み、学習内容の定着を図ること。

## 評価方法

学期末試験(60%)、授業終了時に提出してもらうリアクション・ペーパーおよび不定期に課す小レポート等(40%)を総合して判断する。

## 履修上の注意

10分以上遅れての入室は遅刻扱いとする。

科目名 人類学  
Title Anthropology  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
准教授 黒崎 龍悟 (クロサキ リュウゴ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1~4	選択必修	2	前期

## 目的

自分の生まれ育った場所を遠く離れずとも、私たちは日常的にさまざまな異文化や異文化としての他者に遭遇し、時には理解し合い、時には争ったりもします。人類学はこうした異文化理解 / 他者理解のありようについて探求する学問です。この授業では人類学についての基礎を学ぶとともに、ヒト・モノ・カネがトランスナショナル / グローバルに移動する現代において、異文化理解 / 他者理解が複雑化・多様化している状況について考えていきます。

## 達成目標

人類学の基礎的概念とこれまでの成果を理解し、複眼的な視点から多様性を捉えられるようになる。

## スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人類の起源と進化
- 第3回 人類学の歴史①
- 第4回 人類学の歴史②
- 第5回 生業①
- 第6回 生業②
- 第7回 家族と親族
- 第8回 社会に埋め込まれた経済
- 第9回 呪術・宗教・科学
- 第10回 ジェンダーとセクシュアリティ
- 第11回 文化をめぐる課題①
- 第12回 文化をめぐる課題②
- 第13回 文化をめぐる課題③
- 第14回 応用人類学
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しません。毎回テーマに沿って配布資料や映像資料を用意します。

参考書 綾部恒雄・桑山敬己編 2006.『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房。  
内堀基光・奥野克己編 2014.『文化人類学』放送大学教育振興会。その他授業のなかで紹介します。

## 授業外での学習

授業内容に関連した最新情報（新聞記事、雑誌記事など）に目をとっておくことが望ましい。また、配布資料・自分で作成したノートなどを適宜見直して、学習内容の定着を図ってください。

## 評価方法

受講状況30%  
最終課題70%

## 履修上の注意

授業中の私語を禁止します。  
授業の内容や順序は一部変更になる場合があります。  
現代アフリカ論を受講予定の方には、この授業の受講を推奨します。

科目名 人文地理学  
Title Human Geography  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 中牧 崇 (ナカマキ タカシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 前期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

本講義では、地理的見方・考え方を身につけながら、地理学の一分野である人文地理学のさまざまな現象のうち都市・観光(地)・交通などを取り上げる。たとえば都市では、商店街、観光(地)では温泉地をそれぞれ事例として、高度経済成長期以降の変容に関わる諸問題と、それらに対処するための取り組みを理解するとともに、今後の商店街、観光(地)のあり方について関心をもちたい。近代化産業遺産では、観光地の資源として活用している地域とそうでない地域の相違の要因について理解する。交通では、鉄道のルートと地域の環境(とくに地形)との関連で理解する(地形は後期の「自然地理学」で取り上げる)。なお、下記のスケジュールは履修者の人数などにより変更することがある。

## 達成目標

講義を通して、人文現象への関心を深め、考える機会を増やすことができる。さらに、積極的にフィールドに出て、地域を観察する姿勢をもつことにより、インターネットを含む既存の資料では分からない現実の地域を知ることができる(バーチャルと現実とは異なる)。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス、地理学とは何か
- 第2回 (人文)地理的見方・考え方について
- 第3回 地図から地域を読む(1)
- 第4回 地図から地域を読む(2)、レポートの作成について
- 第5回 都市部における商店街(1)
- 第6回 都市部における商店街(2)
- 第7回 都市部における商店街(3)
- 第8回 地域資源としての近代化産業遺産(1)
- 第9回 地域資源としての近代化産業遺産(2)
- 第10回 高原リゾートと温泉地(1)
- 第11回 高原リゾートと温泉地(2)
- 第12回 高原リゾートと温泉地(3)
- 第13回 山地と越える鉄道(1)
- 第14回 山地を越える鉄道(2)
- 第15回 山地を越える鉄道(3)

## 教科書・参考文献

- 教科書 配付プリント、地図帳(高等学校で使用したものでよいが、新たに購入する場合、二宮書店の『基本地図帳』を用意するとよい)。
- 参考書 必要に応じて授業で紹介する。

## 授業外での学習

授業の復習を中心とした事後学習に取り組むこと(プリント、ノート、地図帳を活用すること)により、授業の内容の定着をはかること。なお、事前学習については授業で指示する。

## 評価方法

定期試験65%、レポート10%、受講状況25%(出席を重視、必要に応じて小課題を出す予定)

## 履修上の注意

部活動、就職活動、アルバイトなどで欠席回数が多い学生の履修はすすめない。高等学校での地理の履修・未履修に関係なく、明確な目的意識をもち、かつ学習意欲のある学生の参加を歓迎する。

科目名 自然地理学  
Title Physical Geography  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 中牧 崇 (ナカマキ タカシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

本講義では、地理的見方・考え方を身につけながら、地理学の一分野である自然地理学のさまざまな現象のうち地形・気候・水を取り上げる。たとえば地形では、大地形や小地形の名称・形態だけでなく、それらがいつ、どこで、どのような過程を経て形成されたかを理解する。気候では、大気の大循環のしくみ、日本列島における降雪・積雪のしくみなどを理解する。水では、「資源」をめぐる問題を日本と外国との関係、河川の上流と下流との関係に着目しながら理解する。また、本講義で取り上げる地形・気候・水が人間生活とどのように関わっているかについて注意を払いたい。なお、下記のスケジュールは履修者の人数などにより変更することがある。

## 達成目標

講義を通して、自然現象への関心を深め、考える機会を増やすことができる。さらに、積極的にフィールドに出て、地域を観察する姿勢をもつことにより、インターネットを含む既存の資料では分からない現実の地域を知ることができる(バーチャルと現実とは異なる)。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス、地理学とは何か
- 第2回 (自然)地理的見方・考え方について
- 第3回 地図から地域を読む(1)
- 第4回 地図から地域を読む(2)、レポートの作成について
- 第5回 内作用によりつくられる大地形(1)
- 第6回 内作用によりつくられる大地形(2)、近年の変動帯における地震・火山活動(1)
- 第7回 近年の変動帯における地震・火山活動(2)
- 第8回 外作用によりつくられる小地形(1)
- 第9回 外作用によりつくられる小地形(2)
- 第10回 外作用によりつくられる小地形(3)
- 第11回 ささまざまなスケールからみた気候(1)
- 第12回 ささまざまなスケールからみた気候(2)
- 第13回 ささまざまなスケールからみた気候(3)
- 第14回 水資源をめぐる問題(1)
- 第15回 水資源をめぐる問題(2)

## 教科書・参考文献

- 教科書 配付プリント、地図帳(高等学校で使用したものでよいが、新たに購入する場合、二宮書店の『基本地図帳』を用意するとよい)。
- 参考書 必要に応じて授業で紹介する。

## 授業外での学習

授業の復習を中心とした事後学習に取り組むこと(プリント、ノート、地図帳を活用すること)により、授業の内容の定着をはかること。なお、事前学習については授業で指示する。

## 評価方法

定期試験65%、レポート10%、受講状況25%(出席を重視、必要に応じて小課題を出す予定)

## 履修上の注意

部活動、就職活動、アルバイトなどで欠席回数が多い学生の履修はすすめない。高等学校での地理の履修・未履修に関係なく、明確な目的意識をもち、かつ学習意欲のある学生の参加を歓迎する。

科目名 世界地誌  
Title World Topography  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 大島 登志彦 ( オオシマ トシヒコ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1~4	選択必修	2	前期

## 目的

地球及び世界全体の幾つかの事象と概要を学ぶことを通して、世界地誌的素養を身につけさせる。また、学生各自の興味ある国または海外旅行のツアーに関するレポートをまとめさせることによって、諸外国の事情や海外旅行に関わる問題点を把握させる。さらにその内容を発表させることを通して、資料作成とレポートを再考して指導できるスキルを養うことを目的とする。なお、「専門地域調査士」に認定(2012年、日本地理学会)され、その資格との関連で学習・実践した地理調査の基礎、各種地図や世界各国の地理的素養を、授業に反映させている。

## 達成目標

地球の運動や世界全体の概要、地形や気候の現状と特徴を、人々の生活と関連させて学習する。また、上記したレポート課題を通して、海外に興味関心を示し、調査する資質を身に着ける。また、受講者全員の発表を通して、世界各地の地誌の事例学習をするとともに、発表のための資料作成と能力を効果的に身につける。

## スケジュール

- 第1回 当授業の概要説明と地理歴史科目の教職課程
- 第2回 地理学の概念と地誌学の概要
- 第3回 世界の地域区分と各地域の特性と諸問題
- 第4回 世界の国々や海外旅行ツアーの調査方法とレポート課題の指示
- 第5回 地球のあらましと時間
- 第6回 地形・国家と領域
- 第7回 世界の気候区分と気候地域
- 第8回 日本と世界の関係
- 第9回 海外旅行に関わる地理的諸問題
- 第10回 レポートの提出とその講評、発表の指示
- 第11回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 ( 1 )
- 第12回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 ( 2 )
- 第13回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 ( 3 )
- 第14回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 ( 4 )
- 第15回 本授業の総括と定期試験の指示

## 教科書・参考文献

- 教科書 地図帳を各自持参：高校の地理の授業で使った地図帳  
授業の概要や要点：毎回プリントを配布します。
- 参考書 必要に応じて、その都度指示します。

## 授業外での学習

学期内に数枚配布する地名や用語などの穴埋め作業プリントを地図帳などを参照して完成させる。  
フィールド調査を行って、課題のレポートを完成させる。

## 評価方法

受講態度重視 ( 25%程度 )、レポートの提出とその内容の発表 ( 25%程度 )  
学期末に筆記試験を行う ( 期末試験50%程度 )

## 履修上の注意

予備知識・要望：中学校での地理学習を理解していることを前提として授業を進める。また、高校で地理を履修していることが好ましい。資格への対応：地理・地誌に関する試験や検定を受けたり自主的な旅行をした学生には、その成果を評価します。(旅行業務管理者、旅行地理検定、地図地理検定、各種の通称ご当地検定など地理・地誌に多少関わる資格や検定各種)

科目名 日本地誌  
Title Japan Topography  
科目区分 一般教養科目

担当教員 担当教員との連絡方法  
非常勤講師 大島 登志彦 ( オオシマ トシヒコ )

E-Mail

配当年次 1~4 単位区分 選択必修 単位数 2 開講時期 後期

## 目的

日本及び身近な群馬県の歴史や概要を学んだうえで、現在の日本における地方都市の問題や環境問題などを考察させる。また、身近な地域の地理・歴史的文化遺産の調査をレポート課題として、各自で文化遺産をみつけて現地をさせ、目で見て確認させる習慣を身につけさせる。さらにその内容を発表させることを通して、資料作成とレポートを再考して指導できるスキルを養うことなどを目的とする。なお、「国内旅行業務取扱主任者」(現在の資格名は管理者)試験に合格し、「専門地域調査士」に認定(2012年、日本地理学会)されている。その資格との関連で学習・実践した日本国内各地の地理・歴史的特徴や地名事情、フィールド調査の見聞などを、授業に取り入れている。

## 達成目標

日本全国と群馬県のおおまかな地誌を理解する。都道府県レベルの地域区分や各地域の概要、郷土に関する地誌の教養を学び、歴史地理の指導的要素を高め、この課題のレポートを課す。また、上記したレポート課題を通して、各自の身近な地域を再認識して、調査する資質を身に着ける。また、受講者全員の発表を通して、日本全国各地の地誌や遺産を事例学習するとともに、発表のための資料作成と能力を効果的に高める。

## スケジュール

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 日本の地誌の概要と課題
- 第3回 日本の地形と地域区分の歴史の変遷
- 第4回 日本の文化遺産の概要とレポート課題の指示
- 第5回 群馬県の概要と地域区分
- 第6回 上毛がるたとその地理的意義
- 第7回 地図の基本と読み方
- 第8回 温暖化と最近の日本の気候
- 第9回 自然災害と地震・原発事故の考察
- 第10回 日本の市町村や地名に関する考察
- 第11回 レポートの提出とその講評、発表の指示
- 第12回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 ( 1 )
- 第13回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 ( 2 )
- 第14回 レポートの内容をもとにした学生の発表と講評 ( 3 )
- 第15回 本授業の総括と定期試験の指示

## 教科書・参考文献

- 教科書 地図帳を各自持参：高校の地理の授業で使った地図帳  
授業の概要や要点：毎回プリントを配布します。
- 参考書 必要に応じて、その都度指示します。

## 授業外での学習

学期内に数枚配布する地名や用語などの穴埋め作業プリントを地図帳などを参照して完成させる。  
身近な地域のフィールド調査を行って、課題のレポートを完成させる。

## 評価方法

受講態度重視 ( 25%程度 )、レポートの提出とその内容の発表 ( 25%程度 )  
学期末に筆記試験を行う ( 期末試験50%程度 )

## 履修上の注意

予備知識・要望:中学校での地理学習を理解していることを前提として授業を進める。また、高校で地理を履修していることが好ましい。資格への対応:地理・地誌に関係した試験や検定を受け自主的な旅行をした学生にはその成果を評価します。(旅行業務取扱管理者、旅行地理検定、地図地理検定、高崎学検定等通称ご当地検定など地理・地誌に関わる資格や検定各種)

科目名 日本史(古代～近世)  
Title Japanese History I  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 綱川 歩美(ツナカワ アユミ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1～4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 前期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

- ・歴史史料の種類を理解し、各種辞書類の使い方を習得し、その内容を読み解く手法を学ぶ。また、史料から得られた根拠や先行研究を踏まえて理論的な考察を加えたレポート作成への能力を養う。
- ・日本の歴史(古代～近世)を、国家や社会の変遷をたどるとともに、それらの時代に生きた人々の文化や思想にも注視する。
- ・出来事の単なる暗記ではなく、それが政治や文化にもたらした意味を考えることで、私たちが生きる現代社会を洞察する視角と知識を養う。

## 達成目標

- ・歴史研究のあり方を知り、歴史を学ぶことの意義を理解する。
- ・日本の「伝統」「固有の文化」とされるものが、広く東アジア世界の影響をうけて形成されてきたことを理解する。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス・歴史学への招待ー歴史を学ぶ意義・歴史学の歴史(史学史)
- 第2回 東アジア世界の中の倭国
- 第3回 律令国家と奈良時代
- 第4回 平安時代
- 第5回 摂関政治から院政時代
- 第6回 武士の時代のはじまり
- 第7回 中世国家・社会と宗教
- 第8回 南北朝動乱
- 第9回 戦国時代の国家・社会
- 第10回 近世国家の成立
- 第11回 近世日本と東アジア・ヨーロッパ世界
- 第12回 近世社会の成熟①
- 第13回 近世社会の成熟②
- 第14回 近世国家・社会の内憂と外患
- 第15回 近代の足音

## 教科書・参考文献

教科書 特になし。毎回レジュメを配る。

参考書 『大学の日本史』1(古代)、2(中世)、3(近世)、山川出版社、2016年。  
荻部直、片岡龍編『日本思想史ハンドブック』新書館、2008年。その他、必用に応じて授業中に指示

## 授業外での学習

授業内で興味を持ったことについて、自身で深く調べる努力をすること。博物館や美術館、地域の歴史イベントへのアンテナを張って、観覧したり参加したりしてみる。

## 評価方法

平常点(授業後のレスポンスシート)と期末レポートにより総合的に判断する。レポート課題は授業中に指示する。  
評価配分は、平常点30%、レポート70%とする。

## 履修上の注意

歴史学は受験用の暗記科目ではない。歴史という素材を通じて、調べたり考えたりする方法を学ぶ学問である。この方法は社会生活の上で応用可能な態度を培うことにもなる。積極的な態度で授業に臨むことを求める。

科目名 日本史(近現代)  
Title Japanese History II  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 小田 義幸(オダ ヨシユキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1~4	選択必修	2	後期

## 目的

本講義では、明治～昭和戦後期(1868年～1989年)の日本政治・外交を対象とし、近代日本や戦後日本の命運を決定つけるような出来事や現在起きている様々な現象と関連の深い出来事を取り上げながら、それが後世にいかなる影響を及ぼし、現在生きている我々にどのようなメッセージを伝えようとしているのか、わかりやすくお話しするつもりです。また、この講義では、歴史が後世の人達によって作られたものだという観点に立ち、中学・高校時代の歴史学習とは一線を画し、世に溢れている歴史の見方や評価に対して疑いの目を持つことの大切さについても伝えるつもりです。

## 達成目標

近現代の日本政治外交史について理解を深めると共に、歴史に対する批判的な見方を身につけることを目標とします。

## スケジュール

- 第1回 オリエンテーション・明治維新はなぜ成功したのか？
- 第2回 憲法上明文化されていない元老がなぜ戦前の日本政治を仕切ることになったのか？
- 第3回 日露戦争をめぐる政府とメディア-メディアは政府よりもはるかに好戦的だった！
- 第4回 日韓併合は合法or違法？ 日本統治下における朝鮮半島の実態とはどのようなものだったのか？
- 第5回 明治憲法体制の下でなぜ政党政治が実現したのか？
- 第6回 普通選挙の実施-政党政治の終焉を早め、 肅正選挙・翼賛選挙を招いた元凶
- 第7回 1930年代前半に軍人たちがテロやクーデターを企てたのはなぜか？
- 第8回 戦争とメディア-メディアは言論弾圧の被害者なのか？
- 第9回 昭和戦前期の日本が対中国政策で失敗を犯したのはなぜか？
- 第10回 近衛文麿首相がアメリカとの戦争を回避できなかったのはなぜか？
- 第11回 戦時日本は「ファシズム国家」、東条英機は「独裁者」なのか？-東条英機内閣の政権運営を事例として
- 第12回 朝鮮戦争と日本-教科書では語られない日本人の戦争協力
- 第13回 なぜ、日韓基本条約・日韓請求権協定が締結されたのか？
- 第14回 なぜ、自由民主党は38年間にわたって政権政党であり続けることができたのか？
- 第15回 なぜ、革新勢力は後退を余儀なくされ、政治的敗北を喫したのか？

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定せず、授業のためにレジュメを配付します。ただし、レジュメだけではテストでの高得点は難しいので、しっかり授業を聞いて自分なりに復習してください。

参考書 鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』(山川出版社、2013年)、北岡伸一『日本政治史-外交と権力増補版』(有斐閣、2017年)など。その他の文献は授業で随時紹介します。

## 授業外での学習

授業で紹介した参考文献(新書レベルでOK)を読む、または、NHKスペシャルやNHK歴史教養番組を収録したDVDを視聴しておくことで授業の理解がより一層深まります。

## 評価方法

学期末試験60%+レポート20%+リフレクションペーパー・小テストなど20%

## 履修上の注意

高校時代に日本史を履修しなかった学生や高校日本史で日本近現代史をほとんど学ばなかった学生も歓迎します。ただし、授業は高校で日本史を勉強していることを前提としていますので、シラバスや配布レジュメに掲載されている参考文献に目を通し、予復習を怠らないようにしましょう。

科目名 宇宙と地球  
Title Space and Earth  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 濱根 寿彦 (ハマネ トシヒコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

宇宙を見つめることは、地球を知ることである。世界の見聞を広めることが、自国をより深く知るようになるよ  
うに。天文学は「最古の実用科学」と言われ、時を計り、季節変化を知るための「天測」、現代で言う「位置天  
文学」に始まる。以来、文明とともにありその成果を反映して、地上界と天上界を包含する世界像(宇宙像)が  
描かれた。本科目では、宇宙を探究する人間の物語を交えつつ、現代の天体観測と理論によって描き出された科  
学的宇宙像を概説し、天体観測の対象にならない唯一の天体である地球が、この宇宙で特別な存在であるかどう  
かへの疑問へと向かう。そうして、天文学を含む諸科学によって判明してきた物質の進化、惑星系の誕生と進化の  
シナリオを基に、地球の普遍性と特殊性を浮き彫りにするとともに、人間の活動と地球環境とが不可分の  
関係にあり、私たちが自らの行いが自らに返ってくる「地球システム」に生きていることを明らかにする。

## 達成目標

以下の事柄について理解し、概ね中学生以上を対象者に想定して、図解・言語等により説明できる。

1. 科学、特に天文学・惑星科学の探究手法と、現代の科学的宇宙観。
2. 地球や人間が「ここ」に存在することが、宇宙の物質進化と不可分の関係にあること。
3. 比較惑星学・惑星形成論の観点から見た地球の普遍性と特殊性および「第二第三の地球」の存在可能性。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション： 宇宙探究史、宇宙の景色
- 第2回 現代の天体観測
- 第3回 太陽系
- 第4回 物質分析と探査
- 第5回 恒星
- 第6回 銀河系と銀河
- 第7回 宇宙論
- 第8回 スケール毎の宇宙
- 第9回 物質進化
- 第10回 生命の可能性
- 第11回 太陽系の誕生と惑星
- 第12回 系外惑星
- 第13回 見えてきた地球
- 第14回 地球システム
- 第15回 宇宙と人間

## 教科書・参考文献

教科書 指定しない

参考書 特になし。

## 授業外での学習

扱う範囲が非常に広いので、総花的な学習よりも、自分が興味を持った宇宙や地球に関するニュース・話題等について、情報発信元まで辿って、表面的な事実だけでなく背景まで掘むことを勧める。ひとつのことをしっかり理解すると、他のこともより深く見えてきて、全体の理解が進むものである。

## 評価方法

定期試験： 70% 受講状況(平常点)： 30%

## 履修上の注意

- ・原則として数式を用いず、図解や画像を多用する。図解にはグラフを含む。
- ・グラフの見方を含め、中学校卒業程度以上の数学概念が必要な場合には、その都度導入・説明する。
- ・これからの人生で、この種の講義を受ける機会は滅多にない。現代人の素養として積極的に受講してもらいたい。

科目名 生態系と環境  
Title Ecosystem and Environment  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 仁木 拓志 (ニキ タクシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

環境問題は我々の「生活の質」に直結する極めて現実的な問題であるため、生態系や環境についての科学的理解に基づいて考えることが不可欠である。しかし日本社会では、キーワードを直感と思想的解釈で善悪分類してつぎはぎしただけの「良い意見」や「道徳的寓話」が跋扈しており、特に放射能汚染等の問題ではその実害は深刻かつ甚大である。本講義では、生態系管理、環境汚染、地球温暖化等について、実事例やデータを元に「問題となる事象の科学的理解」を確立することを目的とする。その過程を通じて、知性を蝕む「キーワード善悪分類・美しい物語・良い意見依存症」と決別し、将来直面した問題に対して合理的に解決策を導けるようになるための科学的思考習慣を養う。

## 達成目標

「キーワードについての良い意見」という悪しき思考習慣から脱却する。生態系保全、外来生物、地球温暖化、放射能汚染等について、「どのような事象がどのような仕組みでどう問題になるのか」という視点から、「物語や見解」ではなく「実事例や実測データ」に基づいて理解し、説明できるようになる。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス / 「生態系が破壊される」「地球のために」「環境に優しく」の空虚さ
- 第2回 人間はどうやって命をつないでいるか?
- 第3回 生物多様性保全の客観的根拠
- 第4回 外来生物は何がどう問題なのか?
- 第5回 環境汚染(1) - 「有害・有毒」物質と環境汚染
- 第6回 環境汚染(2) - 生物濃縮と環境汚染物質対策
- 第7回 富栄養化(1) - 「きれいな水」と富栄養化
- 第8回 富栄養化(2) - 富栄養化が引き起こす問題と富栄養化対策
- 第9回 地球温暖化(1) - 温暖化が起こる仕組みと気候変動
- 第10回 地球温暖化(2) - 温暖化の影響(1)
- 第11回 地球温暖化(3) - 温暖化の影響(2) / 温暖化対策の考え方
- 第12回 「クリーンなエネルギー」の問題(1) - 化石燃料と再生可能エネルギー
- 第13回 「クリーンなエネルギー」の問題(2) - 再生可能エネルギーを活かす技術
- 第14回 福島第一原子力発電所事故に伴う放射能汚染(1) - 「放射能」と「被曝」の基礎
- 第15回 福島第一原子力発電所事故に伴う放射能汚染(2) - 放射能汚染の今

## 教科書・参考文献

教科書 特に使用しない

参考書 初回講義時に紹介する。必要に応じて随時追加紹介する。

## 授業外での学習

授業後には復習をし、疑問点は放置しないこと。日常から「何をするとどういう仕組みで何が起こるか」に関心を持って生活すること。「○○はよい/悪い」「意味/効果があるのか?」「メリット・デメリットは何か?」等の稚拙な思考習慣は捨て、字面を暗記・解釈するのではなく現象の姿を把握するよう努めること。

## 評価方法

平常点(出席カード裏の評価) 50%  
テスト 50%

## 履修上の注意

学内Webの科目ページを随時参照すること。わからないことや疑問点は積極的に質問すること。

科目名 生命科学  
Title Life Science  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 仁木 拓志 (ニキ タクシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 前期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

遺伝情報の科学的理解は、私達の生命観を根底から変えると共に、医療、農業、工業等あらゆる分野に応用され、私達の現代的な生活を支えている。したがって、生命科学はもはや文系・理系を問わないリテラシーである。しかし日本社会では、生命科学をキーワード(専門用語)の集合体として闇雲に暗記し、そこに思想的解釈や空想世界等を紐付けただけで、全てを知った気になっている人があまりに多い。本講義では、知性を蝕む「キーワード善悪分類・美しい物語・良い意見依存症」と決別し、生命そのものや生命科学に対する「現実感」を確立することを目的とする。専門用語は可能な限り排して解説する。誤解の多い遺伝子、進化、バイオテクノロジーを学び直す過程を通して、現代人に不可欠な科学的思考習慣を養う。

## 達成目標

誤解の多い「遺伝子」を正しく理解し直し、説明できるようになる。「進化」を「解釈」ではなく「現象」として正しく理解する。「遺伝子組み換え」「ゲノム編集」「iPS細胞」等を「メリット・デメリットの羅列」ではなく、原理の理解に基づいて遺伝子レベルから「技術」として説明できるようになる。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス/生命って何? 科学って何?
- 第2回 生物の基本構造と生命現象
- 第3回 遺伝情報と遺伝子(1) - 遺伝子には何が書いてある?
- 第4回 遺伝情報と遺伝子(2) - なぜ子は親に似るのか? なぜ体の構造は複雑なのか?
- 第5回 進化(1) - 進化「現象」と進化が起こるきっかけ
- 第6回 進化(2) - 「生き残る」仕組み
- 第7回 進化(3) - 生物はどれくらいうまくできているか?
- 第8回 塩基配列から見える進化の歴史 - 系統樹とヒトの進化
- 第9回 地球生命史を遡る
- 第10回 バイオテクノロジー(1) - 伝統的品種改良
- 第11回 バイオテクノロジー(2) - 遺伝子組み換え技術
- 第12回 バイオテクノロジー(3) - ゲノム編集
- 第13回 バイオテクノロジー(4) - 新しい品種改良
- 第14回 バイオテクノロジー(5) - 遺伝子操作した生物の安全性
- 第15回 バイオテクノロジー(6) - クローン・ES細胞・iPS細胞

## 教科書・参考文献

教科書 特に使用しない

参考書 初回講義時に紹介する。必要に応じて随時追加紹介する。

## 授業外での学習

授業後には復習をし、疑問点は放置しないこと。日常から「何をするとどういう仕組みで何が起こるか」に関心を持って生活すること。「○○はよい/悪い」「意味/効果があるのか?」「メリット・デメリットは何か?」等の稚拙な思考習慣は捨て、字面を暗記・解釈するのではなく現象の姿を把握するよう努めること。

## 評価方法

平常点(出席カード裏の評価による) 50%  
テスト 50%

## 履修上の注意

学内Webの科目ページを随時参照すること。わからないことや疑問点は積極的に質問すること。

科目名 医療と健康  
Title Health and Medicine  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 一戸 真子 (イチノヘ シンコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

人々が質の高い生活を送るためには健康であることが大変重要であり、また病気や障害になった際には、医療や介護などの各種サービスの質は大変重要であることについて理解を深めることを本講義の目的とする。心身の機能の理解に基づく運動や栄養、休養の重要性についても理解する。また現代社会においては医療や健康を取り巻く各種産業構造はどのようになっているかについても、理解することを目的とする。

## 達成目標

1. 健康や医療の重要性について理解できる。
2. 身体活動・運動、栄養や休養の実際と重要性について理解できる。
3. セルフケアおよび専門家によるケアの双方について理解を深めることができる。
4. 医療・介護サービス提供の仕組みやヘルスケアビジネスについて理解できる。

## スケジュール

- 第1回 健康とは何か - 健康の定義、健康寿命、
- 第2回 病気とは何か - 死因、生活習慣病、NCD(非感染性疾患)
- 第3回 健康日本21と健康増進法、ヘルスプロモーション、
- 第4回 セルフケア、セルフメディケーション、セルフヒーリング
- 第5回 フィットネス、スポーツ、リハビリテーション
- 第6回 サークロディアンリズム、ホメオスタシス、睡眠(レム・ノンレム)
- 第7回 休養(積極的・消極的)、余暇活動、ツーリズム
- 第8回 メンタルヘルス、ストレスコーピング
- 第9回 栄養・食育、医食同源、トクホ・サプリメント、スーパーフード
- 第10回 統合医療、代替相補・補完医療
- 第11回 一次予防の重要性、プライマリ・ヘルスケア
- 第12回 病院と診療所、薬局、介護施設と居宅
- 第13回 医療サービスと介護サービス、連携、チームアプローチの重要性、地域包括ケア
- 第14回 健康産業、医療周辺ビジネス、医薬品業界と医療機器業界、
- 第15回 ITと電子カルテ、介護ロボット、健康と医療の今後の関係

## 教科書・参考文献

教科書 必要な教科書や資料は授業中に適宜指示・配布します。

参考書 一戸真子、「グローバル・ヘルス・ビジネス」、日本経済評論社、2018.

## 授業外での学習

予習、復習の習慣をつけてください。

## 評価方法

レポート(30%)、試験(70%)により評価する。

## 履修上の注意

健康の保持・増進は誰もが望むことであり、病気になった場合の医療や介護サービスは、誰しものが利用する可能性の高い分野です。積極的な参加を期待します。

科目名 技術とものづくり  
Title Technology and Engineering  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 榎本 弘 (カシモト ヒロシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

## 目的

現代の生活は多くの科学技術によって支えられており、ここ数十年間だけをみてもすさまじく変化しています。そしてものづくりの未来も大きく変わろうとしています。このような時代を前にして、ものを設計するとはどのような事かを簡単に（理系ではない人を対象にして）説明します。また、歴史的な事例を取り上げ、理解を深めます。

## 達成目標

- ・ ものづくりに必要な基礎的な工学の技術について、主に機械設計を中心に概要を把握する。
- ・ 科学技術について歴史的な事例を紹介し、理解を深める。

## スケジュール

- 第1回 講義の概要、実践的なものづくりとは
- 第2回 単位について(1)、SI単位について
- 第3回 単位について(2) "
- 第4回 機構設計(1)、いろいろなメカニズム
- 第5回 機構設計(2) "
- 第6回 機構設計(3) "
- 第7回 構造設計(1)、機械に働くいろいろな力
- 第8回 構造設計(2) "
- 第9回 構造設計(3)、最適な設計とは
- 第10回 材料設計(1)、材料と試験方法
- 第11回 材料設計(2)、金属材料
- 第12回 材料設計(3)、金属以外の材料
- 第13回 要素設計(1)、いろいろな機械要素と電気要素
- 第14回 要素設計(2) "
- 第15回 全体のまとめ

## 教科書・参考文献

教科書 特になし。

参考書 特になし。

## 授業外での学習

講義で扱った内容が身近にある製品にも応用されているかもしれません。色々な製品を今までとは違った視点や観点から眺めて下さい。

## 評価方法

提出物(24%)、学期末試験(76%)  
出席状況(出席が授業の3分の2以上)を満たさなければ不合格になることがあります。(履修要綱を確認下さい)

## 履修上の注意

ものづくりと日本的経営手法のように経済的な視点からの話は含みませんので、注意して下さい。  
また、授業中に簡単な計算を行ってもらう事があります。試験の際には通信機能のない電卓が必要になります。

科目名 美学  
Title Aesthetics  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 小屋 竜平 (コヤ リョウヘイ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 前期
-------------	--------------	----------	------------

### 目的

この授業では「美学」という学問について学びます。講義ではまず、「美学」がなぜ西洋近代に一つの学問として誕生したのか、「美学」とはどのような問題を扱う学問なのか、現在における「美学」とはどのような問いを探究しているのかということを紹介し、それを通して「美」や「感性」といった対象を思考することが各時代にいていかなる意義をもち、今日の社会のなかでいかなる営みでありうるのかについて考えていくことが目的です。講義では具体的な「作品」を紹介しながら、芸術やその他の諸実践と「美学」との関係性を常に視野に入れながら進めていきます。

### 達成目標

「美学」という学問領域についての基礎的な理解を得る。具体的な作品や実践を、「美学」との関係で思考するための方法を学ぶ。

### スケジュール

- 第1回 初回ガイダンス
- 第2回 古代ギリシャにおける「美」の問題
- 第3回 美学と修辞学
- 第4回 「美学」の誕生 西洋近代と美学
- 第5回 カントにおける「美学」 1 趣味判断の問題
- 第6回 カントにおける「美学」 2 崇高の問題
- 第7回 日本における「美」の翻訳
- 第8回 マルセル・デュシャンと美学 趣味判断とレディメイド
- 第9回 ポップアートと芸術の終わり
- 第10回 分析美学とは何か
- 第11回 今日における美学 1 美学と科学
- 第12回 今日における美学 2 美学と政治
- 第13回 今日における美学 3 『関係性の美学』とその影響 1
- 第14回 今日における美学 4 『関係性の美学』とその影響 2
- 第15回 最終総括(レポート講評)

### 教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 授業内で指示します

### 授業外での学習

授業内で取り上げる文献の読解を通してレポートを完成させる。またレポートでは、具体的な作品や実践を取り上げてもらうので、それを調査し、鑑賞する。

### 評価方法

学期末レポートで評価する。ただし、平常点(授業後に回収する「リアクションペーパー」による参加度)を加味する。

### 履修上の注意

特になし

科目名 物理学  
Title Physics  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 赤羽 良一 (アカバ リョウイチ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 後期
-------------	--------------	----------	------------

### 目的

自然科学には、大きく分けて物理学、化学、生物学、地学、がありますが、物理学は大きな物体から目に見えない極微の粒子(素粒子など)の運動や性質を扱う自然科学の最も基本的な分野の一つです。また、物理学は化学や生物学などとも深い関係を持っており、身の回りの物質や生命に関わる諸現象を物理学として取り扱う分野でもあります。この講義では、このような自然界全般に渡る諸現象を扱う物理学の基礎(入門)として、まず物体の運動(力学)を学びます。そして、それを理解するために必要な高校・大学入門レベルの微分・積分学の基礎を物理現象に即して学んでいきます。また、物理学の広さについて理解を得るために、身近な問題にも注目しながら、化学や生物に関係した現象を物理学の目で見ていくことも試みます。科学の歴史にも触れます。この授業は、広大な自然界の諸現象を理解するための切り口の一つとしての物理学の基礎を学ぶ授業です。

### 達成目標

- 1) 速度、加速度、力、運動量、エネルギー、などの基本的ことがらについて理解し、説明できること。
- 2) 1)の現象を表す数学的表現の基礎について理解していること。
- 3) 身の回りの化学、生物などについて基礎的知識をもち、それを物理(学)的に考える態度を持っていること。

### スケジュール

- 第1回 自然と自然科学
- 第2回 物理入門—物理量・単位
- 第3回 物理と数学基礎—変数と関数
- 第4回 物理と数学基礎—関数と導関数
- 第5回 いろいろな運動 (1)
- 第6回 いろいろな運動 (2)
- 第7回 力と運動方程式 (1)
- 第8回 力と運動方程式 (2)
- 第9回 力と運動方程式 (3)
- 第10回 運動量とその保存
- 第11回 仕事とエネルギー
- 第12回 エネルギーとその保存
- 第13回 物理学と自然科学
- 第14回 分子の世界—その物理と化学入門
- 第15回 まとめ—物理学の歴史も含めて—

### 教科書・参考文献

- 教科書 「遠山啓のコペルニクスからニュートンまで」、遠山啓著、遠藤豊・榊忠男・森毅監修、太郎次郎社、2009年
- 参考書 「生物学と医学のための物理学」、ポール・デヴィドヴィッツ、曾我部正博監訳、共立出版、他適宜指示します。

### 授業外での学習

- 1) まわりの現象に興味をもちよう。
- 2) 科学や技術の歴史を勉強すると面白い。
- 3) 高校の数学や物理を学び直そう。
- 4) 参考書の紹介やプリントの配布は授業中に随時行います。

### 評価方法

期末試験60%、レポート40%

### 履修上の注意

高等学校で物理を十分に履修していない学生も対象にしています。物理学をはじめ、自然科学全般に親しめるよう、幅広い読書を心がけてください。

科目名 ファイナンシャル・リテラシー  
Title Financial Literacy  
科目区分 一般教養科目

担当教員  
非常勤講師 小澤 伸雄 (オザワ ノブオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1~4	単位区分 選択必修	単位数 2	開講時期 前期
-------------	--------------	----------	------------

### 目的

ファイナンシャル・プランナー（FP）として、ライフプラン作成の助言や暮らしに役立つ身近なお金の話を、消費者向けに行っています。人生100年時代、自己責任が問われる時代に、自分らしく豊かで充実した人生を実現するためには、ライフプランを考えることが重要です。ライフプランを立案・実行するために、お金との関わりをどう考えるか、社会保障制度や税制について講義します。

### 達成目標

お金に関する基礎的知識を身につけ、ライフプラン、キャッシュフロー表を作成する。自分の描く、「夢や目標」を達成するための知識を習得する。

### スケジュール

- |      |                          |  |
|------|--------------------------|--|
| 第1回  | ファイナンシャル・リテラシーとは         |  |
| 第2回  | ファイナンシャル・リテラシーのすすめ       |  |
| 第3回  | 金融消費者の知恵                 |  |
| 第4回  | 資産形成の基礎知識                |  |
| 第5回  | 資産運用について (リスク・リターン)      |  |
| 第6回  | 金融商品 (1) 株式              |  |
| 第7回  | 金融商品 (2) 投資信託・FX         |  |
| 第8回  | 金融商品 (3) 債券              |  |
| 第9回  | 社会保障制度 (1) 公的医療・年金制度     |  |
| 第10回 | 社会保障制度 (2) 介護保険・労働保険     |  |
| 第11回 | リスクマネジメント 生命保険・損害保険・医療保険 |  |
| 第12回 | 収入と税金の基礎知識 給与所得、所得税      |  |
| 第13回 | 身近な消費税と不動産               |  |
| 第14回 | 贈与・相続の基本                 |  |
| 第15回 | ライフプラン、キャッシュフロー表について     |  |

### 教科書・参考文献

教科書 「ファイナンシャル・リテラシー」第三版 阿部主司×小澤伸雄×木下康彦 (同友館)

参考書 授業内で指示する。

### 授業外での学習

身近なお金に関心を持ち主体的に行動できるよう、新聞やニュースなどから積極的に情報収集すること。授業後は配布資料を整理し、学習内容の復習をすること。

### 評価方法

小テスト2回 (各30%)、レポート (ライフプラン、キャッシュフロー表、40%)

### 履修上の注意

特になし。

科目名 学問研究入門  
Title Introduction to Academic Studies  
科目区分 一般教養科目

教授 伊藤 宣広 (イトウ ノブヒロ)  
担当教員 伊藤 宣広 (イトウ ノブヒロ)  
担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
新1年生のみ

単位区分  
選択必修

単位数  
2

開講時期  
前期

## 目的

アダム・スミスの『国富論』(正式名称は『諸国民の富の性質と原因に関する研究』)を題材に輪読や討論を行います。

## 達成目標

輪読・討論を通じて、これから大学生として勉強していく上で必要なスキルを習得することを目標とします。

## スケジュール

『国富論』は、ほとんどの経済学部生にとって「名前は知っているけれども読んだことはない」という本の筆頭に挙げられる古典です。分厚い古典というだけで敬遠されがちですが、経済学の本といっても数式は一切でてきませんし、難しい専門用語もほとんど使われていません。あくまで普通の言葉で記述されており、丁寧に読み進んでいけば予備知識のない初学者でも必ず理解できます。

今から200年以上も前に書かれた著作ですが、その内容は驚くほど新鮮で、21世紀に生きる私たちが読んでもなるほどと思わせるような、非常に興味深い内容が随所に散りばめられています。

ただし原書で約1000ページ、文庫版の邦訳書で約2000ページという大著ですので、残念ながら半年の授業で全部を読破する、というわけにはいきません。

そこで、スミスの思想のエッセンスが凝縮されている第1編の前半部分をとりあげ、この部分を精読します。分量はわずかですが、古典の持つ迫力をぜひ味わって欲しいと思います。

- 第1回 ガイダンス(授業の目的、運営方針について)
  - 第2～4回 予備的作業(スミスについての概説、発表・質問の仕方、レジュメの作成方法、輪読の分担等)
  - 第5～8回 『国富論』の輪読+討論(1)
  - 第9回 学習の振り返り
  - 第10～14回 『国富論』の輪読+討論(2)
  - 第15回 総括
- ※必要に応じて適宜、解説を入れます。

## 教科書・参考文献

教科書 アダム・スミス『国富論(一)』(水田洋監訳・杉山忠平訳)、岩波文庫。

参考書 授業中に随時紹介します。

## 授業外での学習

輪読が始まったら予習として、全員必ずテキストの該当部分を事前に読んできてください。毎週20ページくらいずつ進めます。

## 評価方法

発表内容(50%)、質問・コメント等による議論への貢献(50%)  
演習系科目という性質上、平常点で評価し、試験は実施しません。  
ただし出席は上記の評価を行う上で大前提となります。

## 履修上の注意

一人一人に指導が行き届くよう、小人数で進める予定です。  
定員8名とし、履修希望者多数の場合、簡単な小論文により選抜を行いますので、第1回授業には必ず出席してください。

科目名 学問研究入門  
Title Introduction to Academic Studies  
科目区分 一般教養科目

准教授 名和 賢美 (ナワ ケンミ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
新1年生のみ

単位区分  
選択必修

単位数  
2

開講時期  
前期

## 目的

本科目は新入生向けゼミナールと言えるものであり、私の担当するこのゼミではプレゼンテーションをテーマとして、その理論を学んだ上で実践練習を行います。プレゼンの起源はかなり古く、古代ギリシア・ローマ時代までさかのぼりますが、当時の古典を熟読しながらプレゼンへの理解を深めること、さらには受講生各人の関心あるテーマについて発表しながらプレゼン力を高めることを目指します。しかも、このようにしてゼミの雰囲気を感じ取るうちに、2年後期からの専門ゼミをどこにするか、その選択について真剣に検討し用意周到な準備を進めることにもなるでしょう。

## 達成目標

- (1) 質問力の向上・・・論理の隙間やズレを見抜き、鋭い質問ができるようになること。
- (2) 発表力の向上・・・堂々とかつユーモアも込めて、プレゼンができるようになること。
- (3) 問題関心探究・・・専門科目のゼミで、本格的に何を学びたいのか明確にすること。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス+履修者選抜
- 第2回 オリエンテーション+自己紹介
- 第3回 大学で学びたいことの発表① (4名担当)
- 第4回 大学で学びたいことの発表② (4名担当)
- 第5回 輪読(1) プレゼンテーションの現代理論：政治学の視点から
- 第6回 輪読(2) 古代ギリシアにおけるプレゼンの猛特訓：デモステネス
- 第7回 輪読(3) 古代ローマにおけるプレゼン論の成立：キケロ
- 第8回 輪読(4) プレゼンテーションの現代理論：経営コンサルの視点から
- 第9回 調査研究の中間報告① (4名担当)
- 第10回 調査研究の中間報告② (4名担当)
- 第11回 発表内容の絞り込み
- 第12回 発表スライドの作成
- 第13回 問題関心の発表① (4名担当)
- 第14回 問題関心の発表② (4名担当)
- 第15回 総括授業

## 教科書・参考文献

教科書 なし。プリントを配付します。

参考書 授業中に適宜紹介します。

## 授業外での学習

- ゼミなので、以下のような課題を毎回行うことが、当然、求められます。
- ・ 輪読時(予習)読書レジュメの作成
  - ・ 発表時(予習)プレゼン資料の作成

## 評価方法

輪読時の報告20%、輪読での討論20%、問題関心の発表40%、発表時の質疑応答20%。  
自分の担当時にきちんと準備するのは当たり前。他の人が発表する際には積極的に発言し議論に参加する。こうした姿勢で受講しないと、単位取得は難しいでしょう。

## 履修上の注意

定員8名。受講希望者多数の場合、小論文による選抜を実施するので、第1回目授業に必ず出席すること。  
なお、スケジュールは授業の進行状況等により変更する場合があります。

科目名 学問研究入門  
Title Introduction to Academic Studies  
科目区分 一般教養科目

教授 富澤 一弘 ( トミザワ カズヒロ )  
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
新1年生のみ

単位区分  
選択必修

単位数  
2

開講時期  
前期

## 目的

幕末から明治維新期の歴史を綴る『防長回天史』（末松謙澄、マツノ書店、平成3年6月）を素材に、歴史学の基礎を講義致します。その際、政治史、社会史、文化史等の隣接諸学にも留意して講述、この時代の全体像を、受講者に理解・把握させていきたいと思ひます。また講義に際しては、適宜当時の古文書、文献等を紹介していきたいと思ひます。

## 達成目標

講義、および『防長回天史』を通じて、明治維新史に関する基礎的知識を身につけ、あわせて歴史学、政治史学、社会史学等に関する学問的基礎を、認識・習得できるような受講生の育成を、目指しております。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 『防長回天史』と明治維新史
- 第3回 嘉永記①
- 第4回 嘉永記②
- 第5回 嘉永記③
- 第6回 安政記①
- 第7回 安政記②
- 第8回 安政記③
- 第9回 安政記④
- 第10回 安政記⑤
- 第11回 万延記①
- 第12回 万延記②
- 第13回 万延記③
- 第14回 万延記④
- 第15回 総括

## 教科書・参考文献

教科書 『防長回天史』（末松謙澄、マツノ書店、平成3年6月）

参考書 『角川日本史辞典』（角川書店、平成8年11月）、『角川世界史辞典』（角川書店、平成13年10月）

## 授業外での学習

毎日、テキスト1時間の精読を、求めます。

## 評価方法

平常点3割、定期試験7割の割合を以って、評価を行います。

## 履修上の注意

毎回、出席調査を行います。時間厳守、ベルと同時に、講義を開始いたします。